

平成 22 年度科学研究費補助金実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 若手研究 (B) 4. 研究期間 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度
5. 課題番号

2	0	7	2	0	0	1	1
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 近世中国におけるムスリムの人生儀礼研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
7 0 4 4 7 6 7 1	サトウ ミノル 佐藤 実	比較文化学部	助教

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字~800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

近世における中国ムスリムの人生儀礼研究の具体的な分析として、昨年度にひきつづき劉智が著した『天方典礼』の婚姻篇、喪葬篇を引き続き検討を行った。また今年度は黒龍江省哈爾濱市のモスクを中心としたムスリムコミュニティの調査を行い、文献からは見えてこない現代中国におけるムスリムの現状理解をはかり、文献理解の一助とした。

『天方典礼』を読み進める過程において、中国ムスリムがイスラームの人生儀礼は儒教のそれと近似していると主張していることが認められた。ムスリムが考えるイスラームと儒教との人生儀礼の共通性は、おなじ倫理道德を共有しているという自負がその根拠となっていることがわかった。イスラームと儒教の一致はのちに「釈疑（疑いを解く）」という言説の中心テーマになっていくことが看取できる。

今年度の研究によって、この「釈疑」言説の分析に必要性が浮上した。大多数である漢民族にイスラームの存在を認めさせようとした「釈疑」言説の検討をとおして、中国イスラームの特質の一端を明らかにしていきたい。

10. キーワード

- | | | |
|--------|-----------|----------|
| (1) 中国 | (2) イスラーム | (3) 人生儀礼 |
| (4) 回儒 | (5) 劉智 | (6) 天方典礼 |
| (7) | (8) | (裏面に続く) |